

『互いが育つかわりを目指したピア・サポート活動』

藤枝市立高洲南小学校

1 ピア・サポート活動年間プログラム

月別	ピア・サポート活動 ピア・サポートを中心に据えた行事	プログラム	職員研修
4月	<p>1年生を迎える会 「すばらしい南っ子の紹介」 (通年：昼の放送)【提言7】</p>	<p>(「人間関係づくりプログラム」を活用し、年間4回、学活等で実施) ①「出会い」(温かな人間関係)</p>	<p>(H29 のピア・サポート活動の取組を配布済み)【提言3】</p>
5月	<p>わくわく班づくり集会 【提言6】</p>		<p>「職員会③」「ピア・サポートリーフレット」「子どもが安心して学べる学校づくりに向けて」を使つての学習会【提言1】</p>
6月	<p>わくわくタイム(Long 昼休み)</p>	<p>②「聴き方」(相手が話したくなる元気の出る聴き方) 【提言5】</p>	<p>「学年部研修」授業における子どもの具体を価値づける。</p>
7月	<p>わくわくタイム(Long 昼休み)</p>		<p>「職員会⑤」(生徒指導提要の紹介) 【提言1】</p>
8月			
9月	<p>わくわくタイム(Long 昼休み) 運動会、陸上選手励ます会</p>		<p>「随時」学年会などで子どもの情報交換をし、本人に知らせる。</p>
10月	<p>わくわくタイム(Long 昼休み) 親善出場者励ます会</p>	<p>③「自己表現」(自分も相手も大切に自己表現)【提言8】</p>	<p>「学年部研修」授業における子どもの具体を価値づける。</p>
11月	<p>わくわくタイム(Long 昼休み) 研究発表会</p>		<p>「研究発表会」授業における子どもの具体を価値づける。</p>
12月	<p>わくわくタイム(Long 昼休み) クリスマスコンサート</p>		
1月	<p>わくわくタイム(Long 昼休み)</p>	<p>④「自分の気持ちへの対処・対応」(怒りの気持ち「(カンカン)君」と仲よくなるう)</p>	<p>授業における子どもの具体を価値づける。</p>
2月	<p>わくわくタイム(Long 昼休み)</p>		
3月	<p>6年生ありがとうの会 児童会・委員会引継式</p>		

「自己決定」「発達の可能性」の五本柱に合う姿なのを見とり、その子に伝え続ける。

日々の授業の中で、聴く心を育てる。主体的に聴く心、友だちのおもいに寄り添って聴く心を育てる。

1年生を迎える会  
「すばらしい南っ子の紹介」  
(通年：昼の放送)【提言7】

わくわく班づくり集会  
【提言6】

わくわくタイム(Long 昼休み)

わくわくタイム(Long 昼休み)

わくわくタイム(Long 昼休み)  
運動会、陸上選手励ます会

わくわくタイム(Long 昼休み)  
親善出場者励ます会

わくわくタイム(Long 昼休み)  
研究発表会

わくわくタイム(Long 昼休み)  
クリスマスコンサート

わくわくタイム(Long 昼休み)

わくわくタイム(Long 昼休み)

6年生ありがとうの会  
児童会・委員会引継式

(「人間関係づくりプログラム」を活用し、年間4回、学活等で実施)  
①「出会い」(温かな人間関係)

「職員会③」「ピア・サポートリーフレット」「子どもが安心して学べる学校づくりに向けて」を使つての学習会【提言1】

②「聴き方」(相手が話したくなる元気の出る聴き方)  
【提言5】

③「自己表現」(自分も相手も大切に自己表現)【提言8】

④「自分の気持ちへの対処・対応」(怒りの気持ち「(カンカン)君」と仲よくなるう)

(H29 のピア・サポート活動の取組を配布済み)【提言3】

「学年部研修」授業における子どもの具体を価値づける。

「職員会⑤」(生徒指導提要の紹介)  
【提言1】

「随時」学年会などで子どもの情報交換をし、本人に知らせる。

「学年部研修」授業における子どもの具体を価値づける。

「研究発表会」授業における子どもの具体を価値づける。

授業における子どもの具体を価値づける。

## 2 本校のピア・サポート活動の紹介

### (0) はじめに

本校では、学校の核となる「授業」が「人としての根っこを育てる」場であることを職員が共通理解している。5本の柱「人間的ふれあい」「相手とのかかわり」「存在感」「発達の可能性」「自己決定」が「ピア・サポート」の信念に通じるものと確信し、ピア・サポートという言葉が子どもの具体的な姿となって表れるような手立てを講じてきた。

### (1) 授業の中で

#### ①『授業像づくり』

新しいクラスになると、1、2年生には担任から「どんな授業をしたい。」と投げかけを行う。一方、3年生以上になると子どもから、「早く授業像を決めようよ。」という声が挙がってくる。話し合いを行うと、「みんなわかった！と思いたい。」「ハテナをゼロにしたい。」などと、子どもたちの授業に対する熱い思いがたくさんでてくる。その中に担任の思いを重ねながら『授業像』を決めていく。また、上級生の授業を見学することであこがれの気持ちを持ち、学級での話し合いを通して、みんなでかかわり合って学んでいこうという意識が高まり、互いの考えや思いを尊重し合う雰囲気がつくられていった。そして、クラス全体で決定した『授業像』が学級全体の授業の礎となっている。

#### ②『聴く』〈提言5〉

『聴く心 思考する間 動き出す姿』を重点として研修を行っている。聴き方の指導と共に、相手の思いに寄り添って聴く心を育てていくこと、一人一人の学びがより深くなるような聴く心を育てていくことを大切にしてきた。児童は、表情から話し手の気持ちや何を言いたいのかを考えるようになり、反応の質が高まっていった。相手の言いたいことを汲み取って聞き、「○○ってこと？」、「○○を足して伝えたらいいんじゃない？」など、友だちを助ける発言も増えてきている。

### (2) 学級活動の中で

#### 友だちのいいところを見つけよう 〈提言4〉

帰りの会の中で友だちのいいところを見つけ価値づける活動を、本校ではほとんどのクラスで行っている。あるクラスでは、そのエ

ピソードをたんぽぽの花に書きクラス全体へ広めていた。スリッパをそろえてくれる人がいたり、朝マラソンを頑張っている子がいたり、自分の知らないところで頑張っている子がいると知り、「○○ちゃんがあんなことしているなんて知らなかった。」などの感想が出され、お互いを知り合う良い機会になっている。



### 3) 学年間・全校の活動の中で

#### ①縦割り班活動 〈提言1, 6〉

##### わくわく班づくり集会

本校では、仲間意識や集団への所属感、子ども同士のかかわりを広げていく期待感を高めるために、子ども達自身で班をつくっている。「まだ一緒になっていない友達と組もう。」「男女が混ざったペアにしよう。」という声が自然と上がる。児童会の投げかけで、班づくりが新しい出会いのため、男女関係なく仲良く過ごすためであることを、どの子も理解して動いていた。担任は、活動を支援しながら各グループの構成を確認し、自分から譲ることができた児童や、友達のことを考えて行動できた児童を価値付けた。



##### わくわくタイム

月に1・2回、わくわく班でロング昼休みに集まり、6年生の計画した班遊びを行う。ドッジボールではボールを低学年に譲ったり、投げ方をアンダースローにしてハンデをつけて遊んだりする姿が見られた。遊びの内容をその目的とともに考えさせることで、6年生の自立とリーダー性が磨かれた。初めは互いの名前を覚え合うことを盛り込んだ遊び、そして修学旅行後は遊びではなく、東京の様子や体験をクイズを交えて話す会にするなど、目的に応じて下級生を楽しませようと工夫する姿が育っている。遊びの最後には、「次は何で遊びたい?」、「1年生は何の遊びが好き?」と、希望を聞きながら計画を立てていた。担当教師は、自分のグループの安全を見守り、6年生を中心とした活動になるよう支援した。

#### ②児童会「すばらしい南っ子」の紹介

##### 〈提言1, 3, 6, 7〉

児童会が『高南ジャーを元気にしようプロジェクト』と題して、昇降口にポストと掲示

板を設置し、「あいさつ」「がんばり」「ありがとう」の3つの観点から、素敵なエピソード募集し、集まった手紙を掲示したり放送したりして全校に広めた。



放送が流れると、「5年の〇〇くんのことだ！わたしも知っている子だよ！」、「2年の〇〇ちゃんのこと、書こうかな。」と、児童が進んで友達のよさを見つけて広めようとする姿が見られた。高学年が低学年の、低学年が高学年のよさを見つける異学年交流の「目」が育っていると感じられる。

### ③あいさつ運動 〈提言6〉

あいさつの習慣が十分でないことが課題に挙がっていた。子どもたち自身にも考えさせ、「〇〇あいさつ」というあいさつのめあてをクラスごとに立てて、児童会の呼びかけを中心に定期的に振り返りを行った。



またこちらも、児童会が「高南ジャー」となって集会で劇を見せ、どんな場面でどのようなあいさつをすると気持ちがいかが、手本を見せるとともに、JRC委員会（福祉を推進する委員会）と協力して登校時昇降口や門の付近であいさつ運動を行った。

委員会以外にもボランティアであいさつ運動に加わる児童も出てきて、あいさつの輪が広がりつつある。



### ④クリスマスコンサート 〈提言6〉

音楽委員会が企画運営し、有志の参加者を募って行うコンサートである。練習の中で、相談しあって問題を解決していく様子も見られた。「発表する前に、みんなに聴いてほしいな。」とクラスで演奏して、「とっても上手だよ。本番もがんばってね。」という励ましの言葉をもらい嬉しそうにする姿もあった。参加者は、一生懸命つくり上げてきた音楽をたくさんの方の児童や保護者の前で表現することで、達成感や充実感を味わうことができた。



## 3 本年度の成果と課題

12月に行った学校生活アンケートでは、『学校は楽しいと感じている』と答えた児童は89.2%、さらに『友だちと一緒に遊んだり仲良く活動したりしている』と答えた子どもは95.2%となっている。多くの子どもは、前向きに仲間と学び、遊び、学校生活を送っていると考えられる。日々の中で、友達や下級生に優しく声をかけ困っている子を助けてあげる姿がたくさん見られた。子どもたちは学校生活において、自分がしっかりと受け入れられるという安心感があるからこそ、自分を堂々と表現できているのだと思う。

学級経営の中に「ピア・サポート」を取り入れ始めたクラスがあった。友達のことを想った行動をとった友だちを見つけた時に、掲示板にその子のネームプレートを貼り、子ども同士で価値付けし合っていた。担任が意識的に「ピア・サポート」を学級活動に取り入れていくことにより、自然と子どもたちによる友だちの良さの認め合いが生まれていった。

一方で、学校生活に楽しさを感じていない子どももいる。10.4%の子どもが学校は楽しいと感じておらず、4.7%の子どもが友達と仲良く活動できていないと感じている。なぜ、そう思っているのか、どんなことからそう感じているのか、その子どもの苦しさや孤独感に目を向け、解消していくことが課題である。

「ピア・サポート」を機能させ、子ども同士の助け合い、支え合いを生んでいくためには、職員の共通理解が大切である。子どもたちの行動をどう見取るか、どのような振り返りが適切なのかを話し合っ毎年度、共通理解していきたい。職員研修を定期的に行って、子どもたちの思いを見取っていける『目』を職員も身に着けていきたい。

## 4 来年度に向けて

本校の校訓「自立 愛」は授業や学校生活の中に浸透しており、下の学年に引き継がれている。その考えは他人を思いやり、かかわりを大事にしていく「ピア・サポート」の概念と一致する。教職員が入れ替わる中でも、その伝統を引き継いでいきたいと考えている。